

平成 26 年度第 5 回浜松市創造都市推進会議 議事録

日 時：平成 27 年 3 月 5 日（木）午後 5 時 00 分～午後 6 時 05 分

場 所：浜松市役所本館 5 階 庁議室

出席者：根本敏行会長、寺田賢次副会長、和久田明弘委員、杵屋英夫委員、桧森隆一委員、安形秀幸委員、海野敏夫監事、川嶋朗夫監事
（オブザーバー）

影山伸枝創造都市推進担当課長、石塚良明国際課長、森田孔二文化政策課長、
瀧下且元産業振興課長、石川淳観光交流課長

報道関係：2 人

事務局：影山伸枝創造都市推進担当課長、影山元紀副主幹、宮木広由、辻昌孝、外山裕太、藤谷佳澄（以上、企画課創造都市推進グループ）
鈴木三男文化政策課長補佐

1 開会

（事務局 影山元紀）

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から、第 5 回浜松市創造都市推進会議をはじめさせていただきます。本日は、過半数を超える全員の委員にご参加いただいておりますので、会議が成立していることを報告させていただきます。

次に、会議資料について確認いたします。

（事務局から配付資料確認）

それでは、ここからの進行は根本会長にお願いいたします。

2 議事

審議事項「創造都市・浜松」推進アクションプログラム(案)について

（根本会長）

それでは順番に審議事項の一つ目「「創造都市・浜松」推進アクションプログラム（案）について」事務局から説明をお願いします。

（事務局宮木から資料 1「「創造都市・浜松」推進アクションプログラム（案）について」及び資料 2「アクションプログラム変更箇所」の説明）

（桧森委員）

モニタリングの最後の項目「1 世帯あたりの文化にかける年間支出金額」は総務省による抽出調査ですが、浜松市の N 数は分かりますか。

(事務局 影山元紀)

96 世帯です。

(桧森委員)

地域を絞ると母数は少なくなりますので、統計としてどうかという問題はあります。96 世帯分しかないということ意識した捉え方をしなければいけません。

(根本会長)

今日アクションプログラムをこの会議でチェックして、今後公表していきます。最終段階に来ています。ただ、モニタリング項目についてはまだ研究の余地があります。モニタリングのページの一番上に 3 行の解説が書いてありますが、外に出していくときに、必要に応じて指標の追加などもあり得るということ記述できないでしょうか。たとえば、サンプル数や浜松が対象エリアかどうかは分かりませんが、NHK がやっている生活時間調査から市民が 24 時間の生活の中で文化活動に何時間使っているか。あるいはいろいろな経済波及効果からインプットとアウトプット、直接効果と間接効果を考える。要するに音楽イベントのようなプロジェクトをやれば地域の観光に波及効果があるように。その係数を探さなければいけませんので、ちょっとした研究を経ないと、すぐ来年から項目として掲げますとはいかないですけど。モニタリング項目についてはまだまだ研究の余地があって、必要に応じて追加していくこともあるという記述がほしいです。

(空屋委員)

付加価値率は、京都商工会議所がその都市を表現するよい項目として利用しているのがきっかけとなり取り上げていただいた訳ですが、浜松についてもいいように捉えられるものであるのかどうか検証しながら見ていく必要があります。そもそも付加価値率とは何か分かっていないということがあるような気がします。どうしても日本の場合は自動車産業の割合が高いので、その辺も分析しながら見ていく必要があります。

私どもでは 3 月 9 日に総会等があり、一部事業内容や表現が変わる可能性もあります。最終的にいつごろを目処にご連絡すれば間に合うでしょうか。

(事務局 影山元紀)

今年度の推進会議は本日が最終の会議です。了解がいただければこれをもって完成とさせていただきますと思います。市民の皆様へは、ホームページ等で公開していくことを予定しています。策定年月は「平成 27 年 3 月策定」としたいので、今月中にご連絡いただけましたら細微な変更については対応します。

(根本会長)

それでは、推進会議としては今日が今年度の最後となりますが、一部文言の表現の仕方などの変更はあり得るということ、この会議として了承しておくことでよろしいでしょうか。

(川嶋監事)

モニタリング項目「新規事業所届出件数」について「浜松市の市税のすがたのうち」とありますが、統計を他都市と比較するのであれば、もう少し汎用な言い方がいいのではないかと思います。他の政令指定都市やCCNJ参加都市にも見てもらって、これを使えばいいんだなと分かる表現のほうがよりよいと思います。研究し、直れば直していただきたいと思います。

(根本会長)

「市税のすがた」に反映する前のオリジナルの統計の名前ということですね。

(桧森委員)

「付加価値」というのは「売値－原材料費」ですね。クリエイティビティを発揮してその差額が広がり、付加価値率が高まるというのは非常にいいことです。しかし、もうひとつ付加価値率が高まる場合があって、それは量産効果によって原材料の購入コストが下がるときです。ものすごく単純な大量生産をやると付加価値率が上がるという側面もあるので、産業の構成を一緒に見ないと必ずしもこれが創造都市を示すモニタリング項目にはならないと思います。

(根本会長)

他の項目についてもそういうことはあるので、記述の中で、「統計的に把握できるデータを用いてここに書いているけれども、内容がどういうことを表しているかについては数字を鵜呑みにすることなく数字の意味についての説明、読み方を併せて公表していきます」といった補足説明があるかもしれませんね。「新規事業所届出」も質を問うていません。量を見ていますから。メーカーが研究所と本社を引っ越してきましたというのと事業所をひとつ作りましたというのでは重みが違います。付加価値は量産効果によっても上がり、量と質は連動しています。かたや、職人企業は量産ではなく一人当たりの付加価値率が上がるという質の評価になります。これらが混ざってくるんですね。それらを包括的に表したモニタリング項目ですから中身についてはいろいろあるんですよという但し書きができるといいですね。

(根本会長)

5 ページに「多様な担い手の参画」を入れていただき、とてもよかったと思います。先般ポルトガルで、ネットワーク加盟都市とセッションをしてきました。私の印象として、ユネスコのネットワークの重みが文化的多様性にシフトしてきているという感じがします。今まではヨーロッパの名だたる都市がメインでしたが、意図的にアジアやアフリカにネットワークを広げていますし、ユネスコ自体の役割もとんがった産業を育てて牽引するというだけではなく、文化的多様性でいかに安定して持続的に成長できる都市にできるかということにかなりシフトしてきていると感じました。端的に言うと、パリでテロが起きたこと。文化的にお互いに理解できれば安定した豊かな社会になれると言ってきた訳ですが、今テロを起こしているのはみんな英仏で生まれ育った二世なんですね。文化的にかなり統

合が進んでいるんです。ところが、文化的に統合が進めば進むほど、実態としての社会経済の格差が目立ってきてしまうということが起きているのです。これまでのように文化を理解しあえば豊かで平和な社会になれるんだということがかなり揺らいできています。そのときに都市の政策として文化を今後さらにどうするのかというと、文化を理解するレベルではだめで、みんなが豊かになって経済格差が解消・改善されないといけません。「あなたは貧しいまま、私は豊かなまま。でもお互い文化を理解しましょう」では解消できない。文化をてこにしてみんなが豊かになれる社会にしていけないとだめだということをしきりとユネスコは言っているのですね。ですから「包摂的」にしてお互い理解すれば済む話ではなくて、そこからさらに社会的格差、就職差別などが解消されるように文化が生きてくることを目指していると、私は国際会議で感じました。「多様な担い手」というのは、お互い理解を深めるといふ面と、さらにその先の文化によって地域が豊かになるといふところにつながります。

(根本会長)

確認します。この会議としては今日で終わりですが、今月中旬くらいまでに追加の修正がありましたら事務局にお伝えいただき、基本的には今日の案をベースに進めるといふことでよろしいでしょうか。

(このほか特段の質問がなかったため、審議を終了した)

審議事項 平成 27 年度事業計画及び収支予算(案)について

(根本会長)

次に「平成 27 年度事業計画及び収支予算 (案)」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局影山元紀から資料 3「平成 27 年度事業計画及び収支予算 (案)」について)の説明)

(桧森委員)

アクションプログラムとこの予算を短絡的に考えると、アクションプログラムはこんなにいっぱい書いてあるけれど予算はこれだけなのか、やる気はあるのかと思うのが普通の感覚です。アクションプログラムは誰がやるのかということをお伝えなければいけないし、市民に対してどういう気持ちでやってもらいたいか。市民がそれぞれアクションプログラムに参加して成果をあげないとなかなか創造都市は実現しないという仕組みになっているのが、この予算の少なさでよく分かりますね。気になるのは、市民をその気にさせるための予算がちょっと少ないこと。大事なのはアクションプログラムが発表されたら、市民をその気にさせるということなんです。

(根本会長)

資料 3 のオモテ面に広報事業費が計上されていたりします。市民をその気にさせるということ、この金額が多いか少ないかは別の判断基準がありますが、項目としてこういうキーワードを入れたほうが良いというようなご提案はいかがでしょうか。

(桧森委員)

「市民意識の喚起」とありますが、意識だけではなく、もう少し積極的な表現があってもいいかなと思います。市民のアクションを喚起するような。

(根本会長)

創造都市の活動の広がりをはるかにこの収支案を超えるものがありますので、それはご指摘のとおりとして、議論の進め方としまして、まずはこの創造都市推進会議関連の計画案の項目と裏面の予算案はよろしいでしょうかということについてご判断をいただいて、その上でさらにご意見を追加でいただきたいと思います。

まずはこの項目、予算案で次年度進んでよろしいかということについて、いかがでしょうか。

(特段の意見なし)

(根本会長)

では、これを進めるに当たって、このように言葉を足すとか、市民に対してどのような公表の仕方をするかとか、あるいは追加的な意見などを承りたいと思います。

(桧森委員)

私は3月8日に浜松美術協会の総会で講演することになっています。講演のタイトルは「創造都市の実現と市民のアート活動」にしました。趣味の活動で、引退後に絵を描いている人が主なので、創造都市実現のためのアート活動を意識して、単なる趣味からもう一歩踏み出してもらいたいという趣旨でそのようなタイトルで話をします。そのようなある種の啓蒙的な活動をどうやっていくか、もうちょっと考えていく必要があります。

(和久田委員)

アクションプログラムは今後5年間の予定ですが、お金の話は出てくるのでしょうか。コア事業についていつごろいくらくらいかかるのか、単年度予算だから分からないこともあるでしょうが、お金を気にする人はいないのでしょうか。

(事務局 宮木)

市が主体である事業については、今後5年間に想定される予算規模は、各事業について聞いています。民間事業者の予算にまで踏み込んですべてを調べているわけではありません。コア事業について挙げている20事業のうち、平成27年度に市から支出する額は13億円ほどあります。その中で新規事業は61,000千円ほどの予算になっています。この数字を外に出していくかどうかは議論の余地がありますので、資料には数字を載せていません。

(和久田委員)

市の予算は議決前ですし、載らないことは承知しています。今出さなくていいですが、

アクションプログラムが絵に描いただけのものではなく裏づけがある、民間活力だけでなく市もお金を出しているということを示す必要があります。

(桧森委員)

私の創造都市協議会が管理している鴨江アートセンターもコア事業になっています。先ほどから精神論が大事ということをおっしゃっていますが、創造都市のコア事業になったから指定管理料を上乗せしますよという話ではないと思うんですよ。それは期待もしてはおりませんが、来期の指定管理の事業計画書を出すときにはその部分も意識しろよという指示がきっと来るであろうことは想像します。アクションプログラムに載ったものについては、創造都市を意識した来年度のアクションにしてもらう必要があります。

(海野監事)

予算額は調査研究費が大きいです。実態としてこの中で一番中核を占めているのは広報です。ウェブでリンクする話も出ましたがどれだけヒットするかというテクニックがあるらしいです。いくつかのキーワードで必ず「創造都市・浜松」が出てくるとか、コア事業にぱっと行くとか、そういう工夫があるらしいです。それについても研究していただけないでしょうか。

(根本会長)

それでは、今出た論点をまとめて確認します。

この事業計画案、予算案はあくまでテーブルを囲んでいるこの創造都市推進会議のものであり、推進会議としてはこの案を了承します。

今後の進め方についていくつかご提案いただきました。一つ目は「人」。データで出すだけではなくて、説いて回る、宣伝して回る人が必要。一番大事なものは市長ですが。桧森委員もそうですが、私も今度クリエイティブサポートレッツやジェトロの事業に出ますし、予算には出てきませんがことあるごとに説いて回る人たちが必要です。ウェブサイトにあげたら終わりということではありません。

二点目は金の問題。今にわかには何億と出せるわけではありませんが、情報発信の仕方としましては、市が呼び水的に予算をつけて創造の場を作るようになりますので、ぜひ企業、市民、大学がこれに乗って、何倍もの経済効果を生むようにやりましょう。5年計画でざっくり100億とか、我々は言う立場にありませんが、市長さんとか議会とかから言っていただきたいです。達成目標でなくていいと思うのです。望ましい目標でいいと思うのです。そんなアドバルーンも必要です。その一方で、呼び水的なものを現段階では市が中心となってやりますけど、将来はアーツカウンシルなどの話もありますから、何らかの推進母体が小さい予算をつけたり場を提供したりするので、そこに皆さん大いに乗っかって、投資をして事業を広めようではないかという宣伝になるかと思いました。

三点目には、ものとかノウハウとかいう面でウェブサイト。海野委員からありましたようにいかに市民の興味・関心を喚起するかという運用のノウハウもあるでしょうから、事務局で研究していただければと思います。

(そのほか特段の意見がなかったため、審議を終了した)

報告事項 ユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野グラスゴー会議について

(根本会長)

報告事項として資料 4「ユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野グラスゴー会議について」、事務局から報告をお願いいたします。

(事務局鈴木から資料 4「ユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野グラスゴー会議について」の報告)

(特段の質問がなかったため、報告を終了した)

3 その他

(事務局宮木から「創造都市・浜松」PR リーフレット・DVD について報告)

(事務局影山元紀から「創造都市・浜松」公式ウェブサイトについて報告)

(根本会長)

リーフレットや DVD はどのくらいの量をまいていいでしょうか。文芸大の学生全員に配っていいのでしょうか。限られた範囲で配るのがいいのでしょうか。

(事務局 宮木)

主要な関係者にお配りください。今年度製作したリーフレットの数が 12,500 部、DVD の数は 500 部ですので、学生全員には難しいです。映像は YouTube にも上がっていますので、そちらもご覧ください。

(根本会長)

グラスゴー会議で、これはいいなという広報の仕方などはありましたでしょうか。

(事務局 鈴木)

グラスゴーのウェブサイトは大変充実しています。「グラスゴーライフ」という、浜松で言えば文化振興財団的な組織が一手に情報発信をしています。ポローニャも優れていますが、グラスゴーではそれに劣らずインターネットでの情報発信が進んでいます。

(桧森委員)

浜松市創造都市推進会議公式ウェブサイトの英語版はないですか。

(事務局 影山元紀)

原稿の英訳が間に合っておらず、現時点のテストページではご覧いただけませんが、英語でも紹介していきます。

(根本会長)

英語以外には考えていませんか。

(事務局 影山元紀)

まずは英語での紹介に限定させていただきたいと思います。グーグル翻訳のボタンをつけ、精度は落ちますがいろいろな言語に対応することを考えていきます。

(根本会長)

アジアで最初なので、中国語、韓国語、ポルトガル語ぐらいがあるといいかなと思いました。

4 閉会

(根本会長)

それでは、予定していた内容は以上でございますので、以上をもちまして第 5 回創造都市推進会議を終了します。

(事務局 影山元紀)

本日は会議に参加いただき、ありがとうございました。また、今年度一年間、創造都市の推進にご尽力を賜り、重ねてお礼申し上げます。

新年度第 1 回目の開催については、改めてご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。